

第58回愛知県公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時

令和4年8月2日（火）午後2時から午後4時まで

2 場 所

愛知県庁自治センター 6階 602会議室

3 出席者

委員 5人

説明のために出席した者 9人

4 傍聴者

0名

5 議 題

2021年度業務実績に関する評価について

6 議事概要

【2021年度業務実績に関する評価について】

- 評価案を取りまとめて、次回の第59回評価委員会で決定することとした。

【質疑】

2021年度業務実績に関する評価について

○ 委員

議題 「2021年度業務実績に関する評価」について審議に入りたいと思います。

本日は法人にも出席していただいておりますので、まず、法人に確認したい事項等がございましたらご発言いただけたらと思います。

それではただいまご説明がございましたとおり、資料1に基づきまして、評価が法人の自己評価・自己点検がIV「年度計画を上回って実施している」と評価されたものについて、一つずつ確認していきたいと思います。

まず項番1について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

(質問・意見なし)

○ 委員

それでは次の項番に移らせていただきます。項番5について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

○ 委員

「5名の入学者を得た」という記述について、5名というのは、定員と比べて多いのか少ないのかを教えてください。

○ 大学法人

2022年度の合格者数は、全部で17名ございました。そのうちの5名がコミュニティ通訳学コースを選択したところでございます。

○ 委員

通訳学コースがなければ、17名の振り分けはどのようになっているのですか。

○ 大学法人

通常の入試で17名が合格し、その中にコミュニティ通訳学コースを希望する者が5名いたということでございます。

○ 委員

続きまして項番 19 について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等がございますでしょうか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番 22 について、評価案 1 は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」、評価案 2 は「評価委員会は「年度計画を十分に実施している」が妥当であると判断する。」の 2 案がございますので、慎重な審議が必要と思いますが、何かご意見、ご質問、確認事項等がございますでしょうか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番 30 について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等がございますでしょうか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番 33 について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等がございますでしょうか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番 34 について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等がございますでしょうか。

○ 委員

マスタープランについて今回2021を策定されたとのことですが、10年前に策定された2011の反省点をまとめてみえなかったような気がします。今回のマスタープランは、2011ではこれをやった、2021ではこれをやる、といった書きぶりですが、これが一般的なのでしょうか。

○ 大学法人

2011に策定したマスタープランは、当時の課題を盛り込んだ形で策定しました。今回のプランを策定するに当たっては、前回の策定メンバーの先生方にお集まりいただいて、基本の考え方は変更せず、その後に出てきた新しい要素を追加する形で議論していただきました。当初は、時間的に年度内の策定が困難と考えられていた中、なんとか1年でやり切ったので、その点も評価していただけるとありがたいと思います。

○ 委員

続きまして項番40について、評価案1は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」、評価案2は「評価委員会は「年度計画を十分に実施している」が妥当であると判断する。」の2案がございますので、慎重な審議が必要と思いますが、何かご意見、ご質問、確認事項等がございますでしょうか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番18について、これは評価委員会の意見等について検討すべき項目でございますが、評価案1として、「評価委員会は「年度計画を十分に実施している」が妥当であると判断する。」、評価案2として、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」の2案がございますが、何かご意見、ご質問、確認事項等がございますでしょうか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番46について、評価案1として、「評価委員会は「年度計画を十分に実施している」が妥当であると判断する。」、評価案2として、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」の2

案がございますが、何かご意見、ご質問、確認事項等がございますでしょうか。

○ 委員

一番右の欄の評価の書き方ですが、2021年度に対して2022年度はこうであるという、前年度との比較は重要であると思いますが、そういう書き方はされないのでしょうか。

○ 事務局

一番右の欄は学事振興課で記入したのですが、前回の評価と比較して判断するというのは非常に重要なことであるので、ご意見を踏まえ今後はそのようにさせていただきたいと思います。

○ 委員

6年間で全体の評価をすることになるので、同程度の実績で評価がⅢになったりⅣになったりするのをおかしいと思います。前年度と比較した書き方をぜひしていただきたいと思います。

○ 委員

全体評価の中で、「多額のトップマネジメント事業費を確保したこと」というのは、指標の達成状況を指していると思います。全体の総事業費の1.64%をもって「多額」といえるのかという気もしますが、この根拠を教えてくださいませんか。

○ 事務局

昨年度と比較して、割合が伸びたことから、「多額」という表現にさせていただきました。

○ 大学法人

昨年度は業務費総額の1.03%でございまして、額としては1913万2千円の予算額となっております。

○ 委員

そうすると、割合でも、金額ベースでも増額となったということですね。ありがとうございます。

○ 委員

それでは、全体評価について、確認等ございますでしょうか。

○ 委員

2020年度、2021年度の全体評価を入れてくださいと言ったのは私なのですが、2020年度では「研究」のことについて記入しています。今回も研究のことについて書いていますが、例えば県大世界あいち学のこととか、そういったことも非常に重要なことかと思えます。なぜ研究だけをこうやって書いているのか、教育のことももう少し書いてもいいのではないかと思います。

○ 事務局

我々がこれを作成する際に、前年度にどういう書きぶりをしているかといったことを参考に整理したところですが、研究だけではなく、教育の部分についても書くようにさせていただきます。

○ 委員

昨年度も感染症対策のことについて書いていて、今年もコロナの職域接種のことについて書いていますが、もっと教育研究活動の中で評価すべき点もたくさんあると思うので、後でまた書き方を議論したいと思えます。

○ 委員

新教養教育プログラムについては、私も前回意見を申し上げたものですから、ぜひ記入をしていただきたいと思います。また、教養教育に関して外部資金を獲得するのは地味ですが難しいことでもございますので、大学が力を入れていることは、もっと書いていただいてもいいのではないかと思います。

○ 大学法人

委員からの温かいご意見をいただきまして誠にありがとうございます。そういった教育の部分を評価いただけることは、法人としても大変ありがたいことだと思いますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

○ 委員

全体評価の記載には、文字数制限はあるのでしょうか。

○ 事務局

特に文字数制限はございませんが、冊子や議会資料作成の都合がございます

ので、だいたい例年と同じ程度の文字数で整理したいと思います。

○ 委員

次回の評価委員会が最終となりますので、その前に委員の先生方に原案を提示されて、いただいた意見をもとに修正して評価委員会に臨むようにしていただきたいと思います。

○ 事務局

そのように対応させていただきます。

○ 委員

法人の皆様が退席された後も、この件については検討させていただきますので、そこで出た委員の皆様の意見を踏まえて、原案を修正していただき、それをメール等で各委員に事前にお示しいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

その他の評価項目等も含めまして、この場でご確認いただくことはございませんでしょうか。

それでは、評価案について取りまとめていきたいと思います。法人の皆様はご退席をお願いします。

(法人退席)

○ 委員

それでは、最初に戻りまして、評価案を一件一件確定させていきたいと思えます。項番1につきまして、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 委員

それでは、項番5につきまして、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 委員

続きまして、項番19につきまして、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 委員

続きまして、項番22です。これは2つ案があります。評価案1とすべきか、評価案2とすべきか、ご意見をお伺いしたいと思います。

○ 委員

評価の考え方についてお伺いしたいのですが、「取組を積極的に進め」とありますが、推進することが最終的なゴールなのでしょうか。民間企業では、どこを目指していくのかがはっきりしていれば、それを目指していくことが目標であるという考え方です。いろいろと新たなことに取り組んでみえるので、IV評価でもいいと思うのですが、その辺の考え方をお伺いしたいと思います。

○ 事務局

個々の取組の中身でご判断いただきたいと思います。

○ 委員

指標は「愛知県の関連部署との意見交換会を毎年度1回以上開催し、県の課題を共有するとともに、県との共催事業あるいは県施策への貢献活動を毎年度1件以上実施する」となっています。私の理解では、この指標に関しては、意見交換会を1回以上、そして県との共催事業・貢献活動を1件以上実施していれば、指標を上回っているとしてよいのではないかと思います。

○ 委員

この項番は、昨年はIII評価です。昨年度は意見交換会を3回、共催事業、貢献活動を4件実施してIII評価で、今年度は意見交換会を5回、共催事業、貢献活動は1件となっています。共催事業、貢献活動は昨年度より数が減っているのに、IV評価をされたということなので、その内容がすごく良かったということなら分かります。しかし、この文章の中で、昨年度と比較してすごく良かったとは読み取れないので、我々はどうしても数で見ざるをえません。そうすると、昨年が3回と4件でIII評価で、今年が5回と1件でIV評価というのは、6年間通して見たときにおかしいと思います。

○ 委員

昨年度、3回と4件でⅢ評価とした根拠はなんですか。

○ 委員

貢献活動については、今年度件数が減っているにも関わらず、去年がⅢで今年がⅣ評価とチグハグ感が出るのはよろしくないのではないかと思います。

○ 事務局

項番22については、昨年度法人の自己評価がⅢ評価でした。2回目の評価委員会では、Ⅳ評価ないしはⅢ評価だけでもⅣ評価ではないかという意見が出たものを取り上げて議論しますが、昨年度はそういったご意見が出なかったものと思います。

○ 委員

前回の評価委員会で、項番18が指標の件数を超えているのになぜⅢ評価なのかという話になったときに、「Ⅳ評価があまり増えるのも良くないと思って、大学としては項番19を強調したかったんだ」と言われたような気がするんです。どういうことをもって目標達成とするかということが、少しあいまいなところがあるので、こういうことになってくるのではないかと思います。件数で見るといいのか、内容で見るといいのか、どう考えたらいいいのかと思います。

○ 委員

前年度の概要を拝見しますと、「主な取組みとしまして、県の連続講座、愛知シルバーカレッジのカリキュラム作成などを通し、課題解決への具体的な対応方法を検討しました。」ということと「県の認知症に理解の深い街づくりの一環として、長久手市、社会福祉協議会との連携による認知症家庭への援助を開始しました」ということが挙げられています。前回は、愛知シルバーカレッジ、喫茶オレンジの2点だったのですが、今回加わったものとして、愛知産業DX推進コンソーシアム参画、連携協力に関する協定の締結です。

県との共催事業も、前回は愛知シルバーカレッジだけだったのですが、今回はリニモツアーズ、これは中止になったものですが、意見交換は行ったということです。ということで、活動・連携の幅が広がったということが言えるという意味では、上回って実施していると評価してもいいかもしれない。私も迷うところですが、前回はⅢ評価で今回はⅣ評価と言うためには、それなりの根拠が必要だと思います。件数はそれほど変わってない訳で、今申したように活動

の幅が広がっているとか、連携の度合いが深まっているとか、質的などところで評価できればと思います。

○ 委員

すごく賛成で、前回の評価委員会で、項番18は指標の件数を上回っており、IV評価でもいいのではないかというご意見が出たときに、「もっと学外等の質を求めてもよいのではないか」というお考えから、III評価と自己評価したと言ってみえたので、項番22については、もっと対外的に広くやったということを学校側は評価してほしいというお気持ちでIV評価にしたのではないかと思います。

○ 委員

私は、意見交換会は去年よりも多いが共催事業は去年より少ないので、去年に合わせないと整合性が取れないのではないかと思います。去年をIV評価にして今年もIV評価なら分かりますが、それはできないので、今年もIII評価にするしかないのではないのでしょうか。

○ 委員

意見交換会は手段であって目的ではない、共催事業は結果として生まれてくるものであると思います。手段が指標に入ってくると、評価がしづらくなってしまいます。意見交換会は何回開催しようが、効果がなければあまり意味がないことになってしまいます。ここが分かりづらいのですが、この点はいかがでしょうか。

○ 事務局

指標自体は、年度計画で毎年変わるものではなく、中期計画を策定した時に作ったもので、6年間継続して使うものです。次の中期計画を策定する際に、ご意見を参考にさせていただきたいと思います。

○ 委員

私も、適切でない指標も見受けられますので、次回の中期目標・中期計画の策定の際は、もう少し精査して指標を策定していただくとよろしいかと思います。

○ 委員

それでは項番22について、意見が2つございますが、「評価委員会は「年度計画を十分に実施している」が妥当であると判断する。」がいいのか、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」がいいのか、どちらがよろしいでしょうか。

○ 委員

大学側としては、指標には表れないけれど、自分たちはこれだけ取組んだという思いがあるということを、前回の評価委員会でご意見をいただきました。今後は指標を見直していただくということを前提にして、IV評価でもいいのかと思います。

○ 委員

質という点で考えていくべきかなと思います。科研費も件数ではなく内容であるという話も前回あったと思いますので、これも新たな取組みの質が高いと判断されたのだと思いますので、IV評価でもいいのかと思います。ただ、前回との整合性の観点で、外形的な判断で疑問が残るということは避けられないのかなと思います。

○ 委員

難しい判断だと思います。我々のミッションは、「事業の外形的、客観的な進捗状況の確認」ですので、それに照らして考えますと、この6年間の計画期間で一貫した基準で評価をしていかなければならない、ですから、年度ごとで評価の基準が異なるということは避けたいと思います。一方で、活動の質が向上したと見なせれば、IV評価も可能というご意見も承りました。

○ 委員

意見交換会は何回やっても同じだと、貢献活動が大事だと仰ったことがそのとおりだと思いました。したがって、III評価でもいいのかと思いました。

○ 委員

私も、共催事業の件数が減っているのに、去年がIII評価で今年がIV評価というのはおかしいと思います。したがって、III評価にするべきかなと思いました。

○ 委員

たしかに、意見交換会というのは、結論が出なくても、みんな集まって話し

合ったら、やったことになってしまうので、ここが3回から5回に増えたからと言って評価する対象にはならないのかなど、私も思います。

○ 委員

意見交換会に参加すること自体が指標になっていることは当初から疑問に思っていました。参加すること自体は活発にやられた訳ですが、外形的評価を優先すべきかなと考えますと、Ⅲ評価でも構わないかなと思います。

○ 委員

指標に関しては先ほど申し上げたとおりでございます。質に関しては我々は判断できないので、外形的に判断するしかない。もっと積極的に、件数は下がったけれども、この点に関してはより内容が深まったということがあれば、Ⅳ評価とすることもできるのですが、そこがちょっと弱いのかなと感じますので、Ⅲ評価かなと思います。

○ 委員

評価が難しい項番であったかと思いますが、先生方の評価を承りまして、評価としては「Ⅲ」で合意ができたと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 委員

それでは、「Ⅲ」評価とさせていただきます。もし質的な向上が昨年度と比べてあるのであれば、そこをもう少し実施状況のところに書き込んでいただきたいというコメントを付していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○ 委員

続きまして、項番30につきまして、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 委員

それでは、項番33ですが、これも「自己点検の「年度計画を上回って実施

している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 委員

それでは、項番34ですが、これも「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 委員

続きまして項番40、ここは議論が分かれるところですが、これにつきましてご意見はございますでしょうか。

○ 委員

前回の評価委員会で、申請件数が23件で、そのうちの採択率が12件というのがあって、昨年度は30件申請があって、採択は何件だったのでしょうか。

○ 事務局

昨年度はⅢ評価としていまして、申請30件、採択9件です。今年度は申請が減って23件、採択が増えて12件でした。

○ 委員

最終成果でという考え方でいけば、申請件数ではなく採択件数で判断してもいいのではないかと思います。

○ 委員

やはり、指標が適切ではないと思います。申請率は100%が当たり前というカルチャーを作っていただくとよいと思います。しかし、指標自体は変えることはできませんので、今期はこの指標を参照せざるを得ないと思います。

○ 委員

今回の中期目標・中期計画を作る際に、「採択数にしませんか」ということをお伺いしたと思います。しかし、採択される件数が少ないので、申請件数にさせてくれと言われたように記憶しています。評価委員会として、採択数が上がったから評価する姿勢でいいということなら、Ⅳ評価でいいと思います。

○ 事務局

前回の中期目標・中期計画を作った時に学事振興課に居りまして、その策定の際に「何件申請したかよりも、何件採択されたかの方が重要」というご意見を委員からいただいたのを記憶していますが、特に芸術大学においては、科研費のメニュー自体が少ないというところもあり、採択件数を指標に出してしまうとなかなか達成できない年も出てくると、目標を達成できなかったということになってしまうので、大学法人と相談し、指標を申請件数にさせていただいたということだったと思います。しかし、採択件数が大事という先生方のご意見はごもっともでございますので、次回の中期目標・中期計画を策定する際には、大学法人としっかり議論してまいりたいと思います。

○ 委員

もしこれをIV評価とするのであれば、この評価の案の一番最後のところに、「昨年は採択件数が9件だったが、今年は12件に増えた。したがって、IV評価にする」というように、明確に書いてもらった方がよいと思います。

○ 委員

事前の打合せの際に、採択率のデータがないということを申しまして、科研費の採択率の資料を用意していただきましたが、その資料によりますと、2021年度の芸術大学につきましては新規採択率が25%で、その前の年が0%であったのに比べると、かなり上がっていると言えます。その前の年は18%、18年度は44.4%ですので、単純な比較は難しいですが、過去3年間は採択率が上がっているという評価もできると思います。

○ 委員

採択率が重要であると思いますので、成果が出たということを数値でお示しいただいた上で、IV評価でもよいと思います。

○ 委員

成果で評価するという事は、疑問の余地がないことだと思います。その上で芸大にお伝え願いたいのですが、音楽学部は科研費獲得などを基準にすると成果を誇りにくくなります。美術は、特に県芸大は修復に定評がありますが、この分野は科研費に限らず、補助金も取りやすいと思います。ところが、音楽学部は決定的に不利になってしまう。それを前提とした上で「我々としては、こういった評価基準を」というアピールをもっとしていただければいいのかな

と思います。それともう一つ、以前厳しいことを申しましたが、5芸大の中でも受験生が減っていて、一番特色に欠けるということに残念ながらなっています。沖縄芸大は、琉球伝統芸能でも世界であそこしかありませんし、金沢も工芸で特色があります。それに比べると、愛知芸大は、優秀な学生は東京に流れてしまいがちになってしまっています。だからこそ、音楽学部は、これこそが我々の強みだというものを指標に提案していただければどうかと思います。お伝えいただければと存じます。全体としては、昨年よりも採択件数が増えているので、IV評価でいいと思います。

○ 委員

それでは、委員の皆様からは、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」で良いという意見を頂戴しましたので、評価IVで確定させていただきます。

指標の改善についてのご意見をたくさんいただいておりますが、この中期計画期間は変えられませんので、3年後の申し送り事項としてお伝えいただければと思います。

○ 委員

次に「法人評価委員会の意見等について検討すべき項目」ですが、項番18についてご意見をいただけますでしょうか。

○ 委員

これはIV評価でいいのではないかと思います。

○ 委員

昨年度は3件採択で自己評価IVでした。今年は同じ件数3、内容もそんなに悪くないのでIV評価でよいと思います。前回の評価委員会でお聞きしたら、自分は項番19を評価してほしいので、トータルのIV評価の数のバランスを考慮して、項番18をIII評価にしたとおっしゃっていましたので、昨年度との（評価基準の）バランスを取ってくださいと申し上げました。

○ 委員

指標もクリアしてますし、内容もしっかりしているので、IV評価でよろしいかと思います。

○ 委員

私もIV評価でいいと思います。

○ 委員

それでは、委員の先生方から一致して、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」で良いというご判断をいただきましたので、評価IVで確定させていただきます。

○ 委員

続きまして、項番46ですが、指標が「理事長・学長トップマネジメントによる事業費予算の枠を業務費総額の1%以上確保する」というのが6年間を通しての指標です。これも評価が分かれておりますので、ご意見を伺いたいと思います。

○ 委員

昨年度が1900万円くらいで、今年が3600万円と2倍になっています。割合でいうと、1.03%と1.91%ですが、割合と金額が両方とも2倍になっているのは重要なことなので、「昨年度が1900万円、今年が3600万円と大幅な増になっている」という評価でIV評価にすべきではないかと思います。

○ 委員

金額だけではなく、指標に「1%以上確保」とあるわけですので、1.03%から1.91%に大きく上昇したということで、「年度計画を上回って実施している」ということでいいのではないかと思います。

業務費総額の1%という指標を立てたのは、もともと構成比率で、やっぱりパーセンテージで考えて評価した方がいいと思います。

○ 委員

指標は、第三期最終年度までに業務費総額の1%確保であるところ、現状1.03%から1.91%に増えたということをもってして、IV評価ということによろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 委員

それでは、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当である

と判断する。」とさせていただきます。

○ 委員

続きまして、全体評価に移りたいと思います。

○ 委員

先ほども申し上げましたが、県立大学では、新教養教育カリキュラムを発足したこと、外部資金を得たことを書いていただきたいと思います。

○ 事務局

例年全体評価は、県立大学1つ、芸術大学1つを、特に評価の高い項番の中から記載させていただいておりましたが、今回の委員の皆様のご意見によりますと、今の「研究」の記載を削って教養教育カリキュラムを入れるということによろしいでしょうか。

○ 委員

できれば、教育も研究も両方ある方がいいと思うのですが。議会にも、教育と研究を両方やっているということをアピールするためにも、可能であれば両方書いていただけたらと思います。

○ 委員

1つの項番だけに絞るというルールもないですので、「6 研究所1 プロジェクトチームによる」の前に、項番1を反映して「5 学部連携で行う新教養教育カリキュラムの体制を構築した」というのを短い言葉で加えていただくことは可能でしょうか。

○ 事務局

かしこまりました。

○ 委員

私は2019年度のような書き方がいいのではないかと思います。県大とか芸術大学とか書いてしまうと、大学ごとに何かを選ばなければいけなくなってしまう。2019年度のような書き方がいい方が、全体を網羅しやすいのではないかと思います。

○ 委員

2019年度は「教養教育の新カリキュラムの策定や」というところが県大のことを指していると思いますので、書き方を少しぼかしながら、新教養教育カリキュラムのことを書いてみるというような。

○ 事務局

両パターン作らせていただきます。

○ 委員

私は、芸術大学に関する記述が、毎年感染症のことなので、取り上げていただくのはそこではなく、評価がIV評価になったところを中心に、教育や研究に関わる点を取り上げていただきたいと思います。

○ 事務局

かしこまりました。1点お伺いしたいのですが、第三期に入ってから、法人に関する評価がIV評価になったことはなかったのですが、今回初めてIV評価がついたということがございまして、「業務運営の改善及び効率化に関しては・・・」という一文を追加しました。この記載について何かご意見はございますか。

○ 委員

評価がIV評価になったからといって書く必要はないと思います。県大と芸術大学のことを書かれた方がいいと思います。

○ 委員

本当は項番39こそIV評価にしてもよかったとおっしゃったことが印象的で、それを思い、項番22も理由を置いてIV評価とするということにしたのですが、項番39は指標がないと思うのですが、いかに中身を評価するかというのも重要なことだと思います。我々は中身も評価しますよということを意見したいと思います。

○ 委員

ぜひ質的な点も評価したことが分かる書きぶりにしていただければと思います。

○ 事務局

質的な部分に関する説明が不足していると思いますので、法人に伝えます。

○ 委員

指標の書きぶりについて、6年間書き直しはないのですか。企業は3年計画が中心なので。

○ 委員

ないです。

○ 事務局

指標があるのとないのがあるという話がありましたが、重点計画を設けたのが第三期からでして、重点計画にする以上は指標がないといけないということで、重点には指標を設けました。これも第三期の仕切りとしてそのようにさせていただきましたので、第四期の検討をする際に指標の在り方について議論することはできると思いますので、法人と相談して検討したいと思います。

○ 事務局

検討してご相談させていただきます。

○ 委員

国立大学は今年度から第四期に入っているのですが、文科省から「必ず検証可能な指標を作ること」ということが言われていまして、「検討します」というような計画は受け入れられないようになってきています。指標等もかなり具体的な指標になってきており、県立大学もいずれそういった流れに合わせざるを得なくなると思いますので、指標の見直しについては、次の中期目標・中期計画を作る際にぜひ考えていただきたいと思います。年度計画は毎年策定するものであり、「検討する」のような表現ではなく、指標を入れるような形で年度計画を立てていただくことも可能かと思しますので、ぜひご検討をお願いいたします。

○ 委員

他にご意見もないようですので、これで評価が確定しました。確認等が必要な事項につきましては、事務局から個別に委員の皆様にご意見を伺うこととして、最終案の取りまとめについては、私と事務局に一任していただくこととしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 委員

それでは、本日いただいたご意見をもとに、評価結果案を取りまとめた後、法人へ意見の照会をいたします。次回8月23日に開催いたします第59回評価委員会では、業務実績評価を決定する予定です。

本日予定しておりました議題は全て終了いたしました。他にご意見等が無いようでしたら、終了したいと思いますがいよろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは、第58回愛知県公立大学法人評価委員会を終了いたします。ありがとうございました。

以上

会議録署名人

会議録署名人